

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1270700303	
法人名	株式会社 和芳	
事業所名	グループホーム双葉	
所在地	千葉県銚子市松本町2-810-10	
自己評価作成日	平成24年12月29日	評価結果市町村受理 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム	
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8	
訪問調査日	平成25年1月24日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

職員全員で理念を共有し、家庭的で暖かい施設作りに取り組んでいます。車椅子を使用する利用者が増えてきていますが、ホーム内は全面バリアフリーになっていて、十分に安心して過ごせる介助スペースを確保しています。空調面は床暖房やエアコン等を設置し、安全快適に暮らせる環境作り配慮しています。協力医療機関との連携を密にし、随時対応できる態勢を整えています。また、ボランティアの受け入れを積極的に行っています。市関連や地域の方々の訪問、見学も多く交流を深めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

同法人運営の施設には「グループホーム双葉」の他に併設の小規模多機能型居宅介護施設・介護サービス事業所等がある。日頃から法人グループの医師や看護師・医療機関関係者とは、入居者の健康管理・職員からの相談対応・家族への説明等、医療面においての様々な面で連携を図っていると共に、緊急時・急変時・終末期時の協力体制の強化や医療機器等の活用等、入居者・家族が安心感を持って生活できるよう支援している。職員には内部・外部の研修への参加を促し、スキルアップや同業者との交流の機会を確保し、施設の現状や将来必要となる知識や情報収集等の取得に向けた計画的な人材育成に取り組んでいる。入居者と家族との関係が継続出来るよう、誕生会・催し物・外出会等時に家族の参加を心掛けると共に、面会時に生活や介護に家族も関わられるよう配慮している。併設の小規模多機能ホームとの行き来が自由に行われ、顔見知りの職員や馴染みのある環境の中で過ごす事が可能となっており、身体状況に応じた生活活性化が図られている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、事業所の基本理念に基づいた支援、介護を実践しているか確認しあっている。また、運営方針や目標を話し合い理念の実施に取り組んでいる。	「利用者の主体性の尊重・地域交流・心豊かで家庭的な生活支援」という事業所独自の理念を掲げ、サービスの目標として取り組んでいる。理念を施設内に掲示すると共に、唱和を行い、職員全員が理念を共有しケアの実践に努めている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の住民の方々や保育園児の散歩時に談笑し合えるなじみの関係を築いている。双葉ニュースを隔月発行し地域に回覧したり、ボランティアの受け入れで交流を深めている。	日頃から地域住民や幼稚園児等と気軽に挨拶や会話を交わす間柄となっており、良好な関係が築かれている。隔月発行の双葉ニュースの配布や施設行事へ招待等、地域交流に向けた様々な取り組みが行われており、地域住民の一員としての活動を広げている。また、近隣の中学校の職場体験・看護学生の見学の受け入れ等、地域貢献にも努めている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への対応方法について、市役所・認知症サポーターズ講習への協力、参加を行っている。また、研修生の受け入れや地域中学生の職場体験学習の受け入れもしている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1度開催し、利用者の状況説明、行事、ボランティアの受け入れ等の報告及び意見交換を行っている。また、外部評価結果について書面により報告を行っている。	地域包括支援センター職員・民生委員・町会長・入居者・入居者家族・職員等を構成員として、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議では双葉ニュースを活用しながら、施設の活動報告や意見・情報交換等を行っており、より施設の理解が得られるよう取り組んでいる。また、外部評価結果を報告し、施設の現状を明らかにすると共に、今後の目標達成に向けての理解・支援が得られるよう努めている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢者福祉課が開催する認知症ケア会議や研修に参加し、他事業者と情報交換したり、事例を通じて対応策を協議したり、相談したりして良好な協力関係を築いている。	日頃から、業務全般における相談や情報交換を行い市と連携を図っている。また、市主催の講習会や研修等を通して情報の共有やサービスの質の向上を図っており、協力関係が構築されている。運営推進会議時に双葉ニュースを配布し、施設の理解促進を図ると共に意見・情報交換を行い、相互に地域福祉の問題解決に取り組んでいる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	適切な介護のためのマニュアルを配布し、実践に生かせるようにミーティングを行っている。県主催の研修会への参加や市の認知症ケア会議で意見を聞いたり、身体拘束の具体例を職員全員が理解し業務に生かしている。	身体拘束排除における施設方針やマニュアルを整備し全職員に配布していると共に、内部・外部研修へ積極的に参加しており、職員全員が身体拘束排除に向けた意義や知識を共有している。玄関は日中施錠せずに、全職員が会議等にて要望・身体状況等について検討・情報共有を図り、外出希望時には声掛け・見守りに対応する等、入居者の一人ひとりに即した安心・安全に配慮された生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼、定期ミーティングで具体的な虐待事例などを理解し、虐待のないよう全職員で取り組んでいる。また、研修会への参加を積極的に実施して虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	千葉県や公的機関で開催する研修会や講習会等に参加しその必要性や活用法を学んでいる。成年後見人を介しての利用や支援実績もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	各専門スタッフが、契約時や解約時には利用者や家族に不安や問題点等尋ね、わかりやすいように説明し納得が得られるよう丁寧な説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。アンケートの実施や家族来訪時に要望や苦情等を聞き、利用者の意見や不満等は個別に話し合う機会を設けたり、他事業所のケアマネ等への相談を促すなど運営や支援に反映させている。	苦情相談窓口、意見箱の設置やアンケート調査の実施、家族の面会時や電話連絡時を通して、家族の意見や要望を確認している。また、必要に応じて個別に話し合いの機会を設けており、より詳細な意見・情報交換が行えるよう工夫している。挙げた意見・要望においては、ミーティング等にて、周知・検討し、適切な改善が図れるよう努めている。法人全体として入居者・家族の意見・要望の収集・把握・検討・周知・共有に取り組んでおり、入居者・家族との信頼を築きながら、意見・要望が反映出来るような組織体制を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回運営会議を開催し、運営者を交えて直接意見や提案を話す機会を設け運営に反映させている。	定期的に会議を開催し、職員の意見・提案等を直接確認している。また、日頃から管理者が職員とコミュニケーションを取り、職員の要望・思い等を言い易いような環境作りを心掛けている。挙げた意見・要望・情報等は会議にて検討を図り、運営に反映させており、やりがいある職場環境の整備に努めている。法人として内部・外部の研修への参加を促しており、スキルアップや同業者との交流の機会が確保され、施設の現状や将来に向けた計画的な人材育成に取り組んでいる。研修後は研修内容の発表を行い、全職員で研修内容の共有を図り、同業者との意見や経験等を含めて日々のケアに活かし、サービスの質の向上に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度も介護職員処遇改善加算を申請し、介護職員の収入増を図った。また、職員が働きやすい環境整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回実施する院内研修や、地域で開催する研修に参加し介護の向上に努めたり、通信教育・資格取得・各種講座への受講支援の充実を図り、その研修報告を行って情報の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークや地域部会を通じて勉強会に参加し、困難事例の問題を共有したり、意見交換をしながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望に沿えるように話しやすい環境作りを心掛けている。相談時から利用に至るまで、本人の不安や困っていることなどを常に傾聴し不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時や電話相談があったときは、職員全員が真摯に時間をかけて傾聴し、困難事項や今一番求めていることなどを受けとめるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に提供票等を参考にし、本人・家族が何を必要としているかを見極め、必要に応じて他のサービスの利用などアドバイスできる体制をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の後片付け、洗濯物をたたむなど、一緒に作業しながら日常生活の中で、細かい相手への思いやりや、各自の想いに触れ、時に学び、時に支えあう関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援困難時や本人が不安そうな時は、家族の方にもホームに出向いていただいたり、電話で相談するなど、介護について協力いただいている。第三者を交えた家族会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の訪問が気軽にできるよう施設を開放している。家族との外出や外泊は自由になっており、本人と家族の関係維持に気を配っている。	家族と連携しながら希望の店等、入居者にとって馴染みある場所への外出支援を行っている。全職員は入居者一人ひとりの生活歴や意向を尊重し、良好な関係継続が図られるような場面作りや機会作りに努めている。家族との外出・外泊は自由になっており、家族関係の継続を支援している。また、外出時に入居者の状態に応じて家族への助言や協力を心掛け、面会時には生活や介護に家族も関わられるよう配慮する等、家族とのより良い関係が円滑に継続できるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係や、それぞれの残存能力を生かしてお互い支えあえるような関係になれるよう配慮している。細かな気配りができる方は世話役も得意なのでうまく力を発揮することができるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の相談等に応じたり、入院時もお見舞いをかねて訪問するようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の体調や気持ちの変化に合わせた意向の汲み取りができるよう家族とも連携しながら対応している。また、職員全員で情報を共有して本人本位の暮らし方ができるよう日々検討している。	入居時に本人や家族から意向・身体状況・生活歴等の情報を収集し、記録している。入居後は、家族との話し合いや日々の生活の観察や会話の中から、意向や思い等を汲み取り、記録している。会議では、本人本位の生活が送れるよう職員全員にて周知・検討を行い、入居者の意向に沿ったサービスの提供に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からこれまでの経験や生活歴を把握し、本人の馴染みの暮らし方を理解するように努めている。また、これまでのサービス利用の経過等を把握したうえでその人らしい暮らしや尊厳が保てるように支えていく努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態、現状で保有している心身の能力を客観的に把握し、本人が暮らしやすいように支援できるよう、常に職員間で情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族等の想いや望みを把握し、可能な限り介護計画に取り入れるようにしている。介護計画は職員全員で意見交換し、本人本位に立って計画作成者がまとめ作成している。	入居者・家族の意向を踏まえ、全職員にて意見・情報交換を行いながら介護計画を作成している。必要に応じて医師や看護師の意見を確認し、入居者一人ひとりに即した介護計画の作成に努めている。また、定期的に介護計画の評価や目標達成状況の確認を行い、必要に応じて介護計画の見直しを行い、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づきケアを実践し、結果や気づき、工夫を個別記録に記入している。それを全職員が目を通し、日々新しい情報を共有しながら支援に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接する小規模多機能ホーム双葉利用者との交流や共同支援により、生き生きとした生活が送れるよう取り組んでいる。また、その時々々の要望に対し、各分野からの専門スタッフのアドバイスを受けた柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の生活の安定を支援できるよう、必要に応じてボランティア、民生委員、警察、消防、教育機関等の協力が得られるように働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望するかかりつけ医への受診には、職員と家族協力して適切な医療を受けられるよう支援している。受信事実を記録し、家族へ随時報告するようにしている。必要に応じて管理者と共同してかかりつけ医への相談を行うなど、適時に医療とスムーズに連携できるよう支援している。	希望のかかりつけ医への受診が可能になっており、必要に応じて職員が通院の付き添い支援を行っている。協力病院を設置しており、定期的に内科医や歯科医の往診が行われ、適切な医療支援を受けられるよう体制を整えている。また、協力病院や訪問看護とは入居者の健康管理・職員からの相談対応・家族への説明等、医療面における連携が図られていると共に、緊急時・急変時における協力も確保されており、入居者・家族・職員の不安解消に繋がっている。他に、医師・看護師の指導のもと、医療機器の備えや職員に対する医療面の講習等が実施されており、状況に応じた適切で速やかな医療支援に結び付けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション双葉との協働により、利用者の変化を把握し、看護、介護に生かしている。また、地域の看護職員との連携もとれていて気軽に相談できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携体制は整っている。医療機関と今後の対応について情報交換を欠かさないようにしている。また、安心して治療に専念できるよう態勢を構築、入退院に支障のないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて、家族、医師、職員、看護師で話し合いケア方針を共有している。日常生活での変化や体調に注意し、機能低下に対応した態勢を築いている。また、終末期に関して、方針の説明、同意書の受領し介護計画を作成している。	終末期や重度化における施設指針・同意書を作成しており、契約時に本人・家族に説明し同意を得ている。重度化・終末期に向けては、全職員が入居者家族の意向を確認しながら支援方法の検討・統一を図っていると共に、普段から協力病院の医師や看護師等の医療関係機関と連携を図り、その時々の変化や必要に応じた支援が行えるよう体制を整えている。施設としては終末期や重度化に向けた職員の内外研修の充実を図っており、技術や知識の取得等を目指すと共に、ターミナルケアに必要な機器の設置等、本人・家族の意向に添った支援が行えるよう環境整備に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変利用者対応、事故発生時の対応等のマニュアルを作成済み。日頃から利用者の身体的特徴の把握、事故対応等の職員研修を実施。また、応急手当、初期対応の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成。避難経路図を掲示し、いざというときに備えている。消防避難訓練を年2回実施。特に、夜間人手不足時の対応に近隣の協力が得られるよう訪問し協力依頼している。運営推進会議メンバーへの協力依頼やニュース回覧を活用している。	緊急災害時のマニュアルが整備され、避難経路の確保がされていると共に、自動火災報知機・消火器等を設置し、災害時や緊急時に備えている。年2回、消防避難訓練を行い、非常災害時に備えている。また、非常災害全般の管理を専門業者に委託しており、研修・機器確認・相談・消防署との連携等、プロによる災害時の安全確保が行われている。運営推進会議や双葉ニュースを活用し、災害時・緊急時の地域住民への協力の呼びかけも行われており、地域との協力体制の構築に取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性や人格を尊重し、誇大な言動や非現実的な言動であっても、穏やかな心で傾聴し「寄り添う介護」を心掛けている。個人のプライバシーを尊重し、プライドを傷つけないよう、無断で侵害することのないよう周知している。	接遇やプライバシー保護に関するマニュアルを整備すると共に、研修の実施や指導等を行い、入居者への尊厳厳守の徹底を図っている。全職員は入居者一人ひとりに合わせた言葉かけや介助方法を工夫し、個人の尊厳に配慮しながら、日々の業務に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者への言葉かけに心掛け、希望の表出には静かに傾聴し、気軽に何でも話せる環境作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に傾聴し、優先順位を見極め、十分なコミュニケーションを取りながら、日々の生活や時間を大切に過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力いただき、本人の好みのものや衣類を用意していただいている。それが困難な時は職員が用意したりして希望に沿えるよう支援している。定期的な美容師の来訪で身だしなみも整っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一日の中で大切な時間であり、体調が悪くない限り同じテーブルで会話をしながら楽しく食事がとれるよう支援している。食事前後のテーブル拭きやトレイ拭き、下げ膳など、可能な方(数人)は楽しそうに行っている。	献立については法人グループの栄養士が作成しており、入居者の希望・嗜好・栄養バランスに配慮されている。また、食材は隣接の小規模多機能ホーム双葉にて用意されているが、変更や追加等には柔軟に対応している。入居者の希望や能力に応じて、調理・準備・片付け等は調理担当の職員と共同で行っている。また、手作りおやつ・誕生会・外食会等では入居者の希望を取り入れ、家族も交えて行われており、食に対する楽しみが増し、食を通して家族との交流が図られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を把握し、少ない場合は間食等で補うなど、本人が摂取可能な限り水分補給できるよう配慮している。他事業所の栄養士の支援によるバランスのとれた献立を、介護者は利用者の能力、好みに合わせて食べやすいように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、義歯の洗浄を行い、口腔内の清潔保持に努めている。飲み込みが悪い利用者が増えているので誤嚥性肺炎にならないよう気を配っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が一人ひとりの排泄パターンを把握し、習慣を生かして気持ちよく排泄できるよう誘導介助を行っている。失禁の対応は不安や羞恥心に配慮しプライバシーを守りながら支援している。	排泄チェックリストを活用しながら、個々のパターンを把握しており、適切な排泄支援が行われている。声掛け・トイレ誘導・夜間のポータブルトイレの活用等、身体状況に応じた排泄の自立支援に取り組んでいる。必要に応じて献立の工夫や医師・看護師と相談しながら排泄コントロールを行う等、適切な排泄習慣の確保に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士によるバランスのとれた食事、こまめな水分補給、毎日牛乳を飲む習慣や、体操や散歩、身体を動かす働きかけをしながら便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介護浴槽を導入し、浴室を改造。以前より一人ひとりに合った入浴ができています。入浴は本人の希望や状況に合わせて無理なく柔軟な対応を心掛けている。入浴を拒む場合は、声掛けなど工夫して入浴する気分になるよう支援している。	浴室には手すり・介護浴槽・エアコン等が設置され、適切な空調管理や身体状況に配慮された造りとなっており、安全で快適な入浴を支援している。毎日入浴する事は可能となっているが、入居者の希望や体調に応じて回数・時間等、柔軟に対応している。また、必要に応じて清拭・部分浴・シャワー浴等実施されており、清潔保持にも努めている。他に、定期的に体重測定を実施し、身体状況の変化の早期発見に繋げていると共に、介護浴槽を導入する等、身体状況変化に考慮した生活環境の整備に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールリビングにソファを設置し、季節に合わせてゆったりと休息、安眠ができるように支援している。また、適時に利用者の不安に耳を傾け、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	高齢者は複数服薬することが多いため、必ず処方箋に目を通し、服薬の目的、副作用、用法、用量について内容を把握して服薬支援に努めている。また、服用後に変化があるかどうかの確認を怠らないよう気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活を尊重し、その中で食事の手伝い、洗濯物たたみなど個々のできる範囲で楽しみながらできるように支援している。また、季節の行事や花見など計画し楽しさを共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は体調を考慮しながら、声掛けをしなるべく散歩に同行している。希望があれば、家族と協力しながら買い物などの外出ができるように支援している。また、お花見等、季節に応じた戸外での楽しみを支援している。	日頃から入居者の希望・体調・天候等に応じて、散歩・買い物・ドライブ等、外出活動を行っている。また定期的に季節に合わせた外出行事を企画・実施しており、戸外での様々な楽しみを支援している。催し物・外出会・外食会等への家族の参加の呼び掛けを行い、家族との関係継続を支援しており、入居者と家族が外出時の楽しみを共有でき、その人らしい生活の継続に繋がるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力量に応じ、お金を所持したり使えるよう支援している。希望に応じて買い物に同行、本人がお金を使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内にピンク電話を設置。本人の意思で電話することができる。また、ポストを設置してあるので代理投函ができるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全面バリアフリーで玄関、廊下、トイレ等ゆったりとした設計。トイレは職員が頻繁に見回り、定期的に除菌、消毒、清掃を実施している。ホールは床暖房、採光も明るく上部窓の開閉により通気性を保っている。キッチンからお互いの顔が見える。ソファを配置しくつろげるようにしている。	施設内は、バリアフリーとなっており、十分な介助スペースが確保されていると共に、床暖房が設置されており、安全で快適な生活環境作りがなされている。施設内は日当たりが良く、明るく開放的な造りとなっており、窓から電車や外を往来する人が良く見え、生活リズムが整えられ心地よい刺激となっている。中庭には菜園があり、入居者と共同で作物を植え、季節を楽しむ事が可能となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、テーブル、ソファ、椅子の配置等工夫して、利用者が一人になったり、気の合う者同士で自由に過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望により、馴染みの家具や身の回り品、衣服の持ち込みで今までの生活が継続できるようになっている。また、全居室にエアコンを設置、過ごしやすい空調管理を心掛けている。	入居者の希望に応じて、馴染みの物を持ち込む事が可能で、安心して居心地良く生活できるよう工夫されており、一人ひとりの個性が反映された居室作りがなされている。また、全居室にエアコン・換気扇が設置され、適切な空調管理が行われている。他に、居室の構造上防災等に配慮した造りとなっており、災害発生時に備えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーとし、手すりを設置。夜間はフットライトでトイレ誘導が安全、スムーズに行えるよう配慮している。できるだけ自立した生活が送れるよう改善工夫している。		